



市庁舎の今後のあり方を 考える市民会議

平成29年7月9日
常滑市

市庁舎の概要

【建築年】

昭和44年4月(昭和53年増築)

【構造及び階数】

鉄筋コンクリート造り、一部鉄骨造

地下1階、地上5階

【各種面積】

敷地面積: 9,638 m²

建築面積: 3,095 m²

延床面積: 8,113 m²

市役所の仕事

<平常時>

●市民の快適で健康的な暮らしを守ること

+

<災害時>

●市民の生命・財産を守ること

<平常時>

1日でみる市役所の仕事と皆さんの暮らし

AM7:00 【歯磨き・洗濯】



毎日使用する水道は市の水道課が安心・安全な水を提供しています。



(中央配水場)



AM7:20 【お手洗い】



毎日使用するお手洗いも市の
下水道課が下水処理や維持・
管理等を行っています。



(常滑浄化センター)



下水道課は市役所2階

AM7:40 【登校】



月1回定期的に発行される広報とこなめは、市の秘書広報課が企画・作成し、市に関する情報等をお届けしています。



(広報とこなめ)

秘書広報課は市役所3階



AM8:00【登校中】



ごみの集積場所等の管理も、市の生活環境課が行っています。また、ごみの減量・適正処理の推進活動も実施しています。



(クリーンセンター常武)



生活環境課は市役所1階

AM8:20【登校中】



普段何気なく歩いている道路も、市の土木課によって、補修・整備されたり、新しい道路がつくられたりしています。



(道路拡幅工事)

土木課は市役所2階



AM8:30【登校中】



地域住民の憩いの場である都市公園の清掃・管理は市の都市計画課、農村公園は市の農業水産課が行っています。



(多屋公園)



都市計画課は市役所2階

AM9:00 【授業中】



毎日通っている小中学校の施設も、市の学校教育課が管理しており、給食の献立作成や調理は市の給食センターが行っています。



(鬼崎中学校)



学校教育課は市役所3階

PM4:00【下校時に】



学校帰りに利用する図書館も市の生涯学習スポーツ課が管理しています。



(図書館)



生涯学習スポーツ課は体育館内

PM5:00【休日の夕方】



常滑焼まつり等の観光振興に関することは市の商工観光課で行っています。



(常滑焼まつり)



商工観光課は市役所1階

PM6:00(帰宅・体調不良)



病院に掛かる際に必要な保険証等の発行は、市の保険年金課が行っています。



保険年金課は市役所1階



PM7:00【病院へ診察】



市民病院も市が管理・運営しています。市民病院には市の健康推進課も併設しており、市民の健康増進に努めています。



(常滑市民病院)



健康推進課は市民病院内

PM10:00【就寝】



台風等による警報が出た場合、市の安全協働課の防災担当は市民の安全を守るため、市役所で状況把握に努めています。



安全協働課は市役所1階



<災害時> 地震等が発生したら…

市民の生命・財産を守ります

発生

1時間以内

災害対策本部設置



市民の安全確保・避難



- 災害対策本部設置
- 地震・津波情報の確認
- 来庁者の安全確保・避難誘導
- 避難勧告・避難指示の伝達

3時間以内

避難所開設



被害状況の確認



- 避難所の開設
- 住家等の被害情報の収集
- ライフラインの被害状況確認
- 道路等の被害状況確認

現市庁舎が抱える課題

●防災面の課題

●老朽化の課題

防災面の課題

耐震性能の
不足
(庁舎としては
県内唯一)

震度6強の地震時に、
・倒壊又は崩壊する危険性が高い
・天井・窓ガラス等が落下又は破損する可能性あり

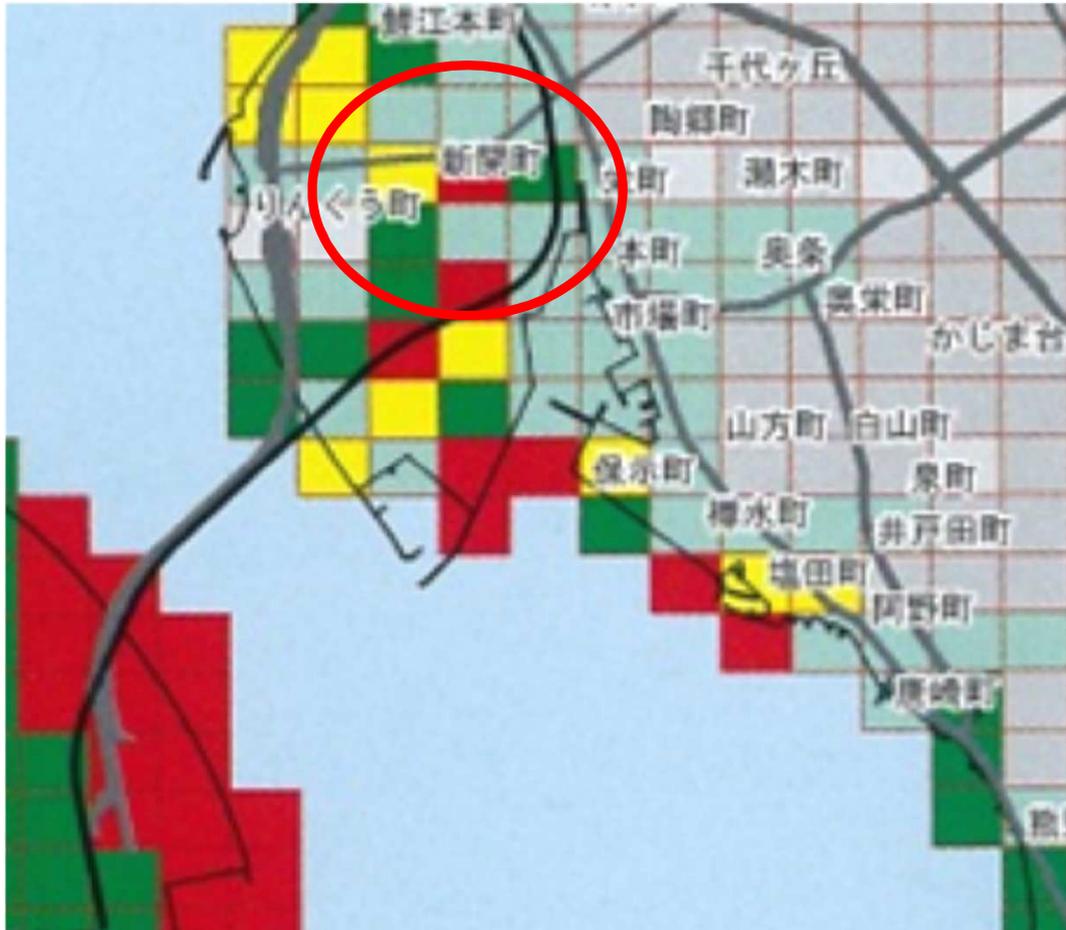
地盤の液状化

市庁舎敷地は地震により液状化が発生する可能性あり

津波・高潮による浸水

市庁舎は地震により浸水する可能性あり
⇒最大浸水深は0.3m～1.0m

ハザードマップ(液状化)



液状化の可能性
が極めて高い



液状化の可能性
高い

ハザードマップ(津波)



津波浸水深
0.01~0.3m

津波浸水深
0.3~1.0m

老朽化の課題

**設備の老朽化
(築48年)**

ほとんどの設備(空調・給排水など)は竣工当初のものを使用

**ユニバーサルデザイン
の非対応**

高齢者・障害者等への環境整備が不十分

**低い環境性能と
高いランニング
コスト**

古い空調設備、古い照明設備、低い断熱性能などにより環境性能が低く、ランニングコストが高い

※ユニバーサルデザイン…文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障害・能力の如何を問わずに利用することができる施設

※ランニングコスト…設備などを維持・管理するために必要となる費用のこと



**防水劣化による
雨漏り**

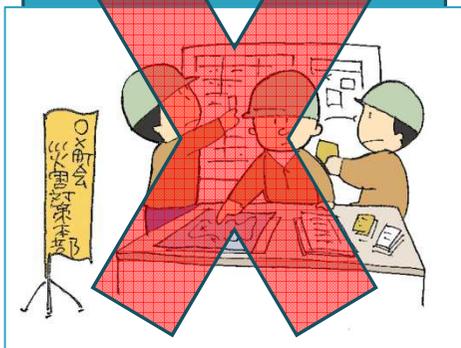
古い空調設備



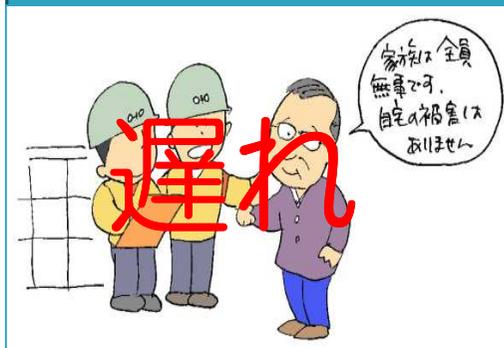
市庁舎が倒壊又は崩壊すると…

発生

災害対策本部設置



市民の安全確保・避難



大幅な遅れ

1時間以内

- 災害対策本部設置

- 地震・津波情報の確認
- 来庁者の安全確保・避難誘導
- 避難勧告・避難指示の伝達

避難所開設



被害状況の確認



大幅な遅れ

3時間以内

- 避難所の開設

- 住家等の被害情報の収集
- ライフラインの被害状況確認
- 道路等の被害状況確認

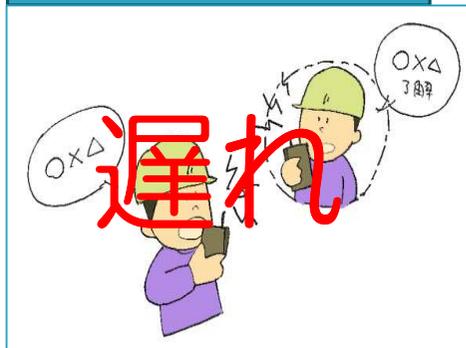
大幅な遅れ ←

1日以内

物資の確保



他機関との連携



- 非常食等物資の調達・配給
- 国・県への被害状況の報告
- 防災関係機関との情報共有
- 自衛隊等への派遣要請

遅れ

大幅な遅れ ←

それ以降

その他の応急業務



- 食糧・生活必需品の調達
- 罹災証明の交付
- 二次災害防止措置
- 水質の管理や給水の確保
- 仮設住宅の建設

遅れ

初動対応の遅れにより被害拡大

また、

地震発生の日時によっては…

**多くの職員が被災することとなり、
さらに初動対応が遅れることとなる**

さらに被害拡大

市民に対する影響は…

◎避難に関する情報提供の遅延

⇒避難勧告・避難指示、避難所開設等々

◎被災者支援の遅延

⇒避難所への物資供給、被災証明の発行
仮設住宅の入居手続き等々

◎ライフライン復旧の遅延

⇒道路、上水道、下水道等々

結果として…

被災者となった市民の皆様の生命・生活に大き

く影響する

市庁舎耐震化整備の検討経過 について

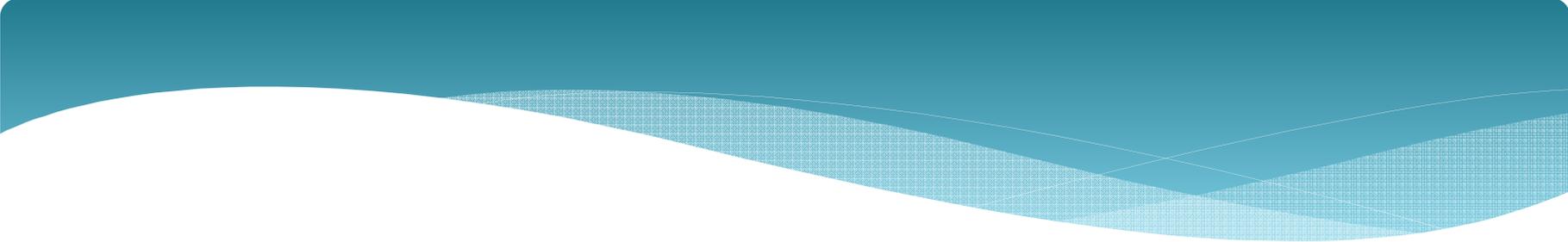
平成16年度

◇市庁舎の耐震診断を実施

⇒耐震性能なし、耐震補強必要

平成17年度

- ◇市庁舎の耐震補強の検討
⇒補強部材による執務スペース、
動線の確保が困難
- ◇市民の皆様の安全・安心のため
保育園・小中学校等の耐震補
強、消防本部・市民病院の建て
替えを優先
- ◇厳しい財政状況



**以上のことから、
市庁舎の耐震補強については先送り**

平成15～22年度

◇小中学校の耐震補強工事

平成23年度

◇消防本部を移転新築

平成23～25年度

◇保育園の耐震補強工事

平成27年度

◇市民病院を移転新築

平成25年度

◇耐震改修促進法の改正

**⇒耐震診断の義務付け、結果
の公表**

平成26、27年度

- ◇市庁舎の耐震診断を再実施
⇒耐震性能なし、執務スペースが確保できる補強計画とする
- ◇コンクリート性能の調査実施
⇒コンクリートの強度はあり、残存耐用年数は20年程度以上

平成28年度

◇基本設計実施

★基本方針★

既設庁舎を耐震補強して使用

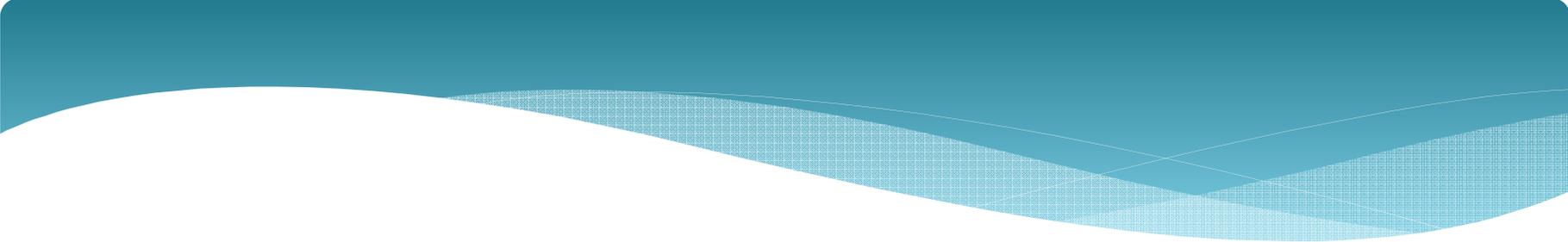
●整備方針●

- ・執務を継続しながら実施できる耐震補強とすること
- ・耐震補強後も現在の執務スペース相当は確保できること
- ・倒壊を防ぐことを目的に構造体(柱、梁等)のみ耐震補強を行うこと

ところが…

◎熊本地震等の発生により発
災後も庁舎機能を維持するこ
との重要性が示された

⇒倒壊を防ぐだけでなく、天
井崩落、窓ガラス等の破損を
防ぐ必要がある



**◎設備関係の老朽化が著しい
ことが判明**

**⇒設備改修をしなければ、庁
舎機能が維持できない！**

★災害時に機能する庁舎にするためには…

構造体(柱、梁等)と非構造部材
(天井、窓ガラス等)の耐震補強
を行うこと

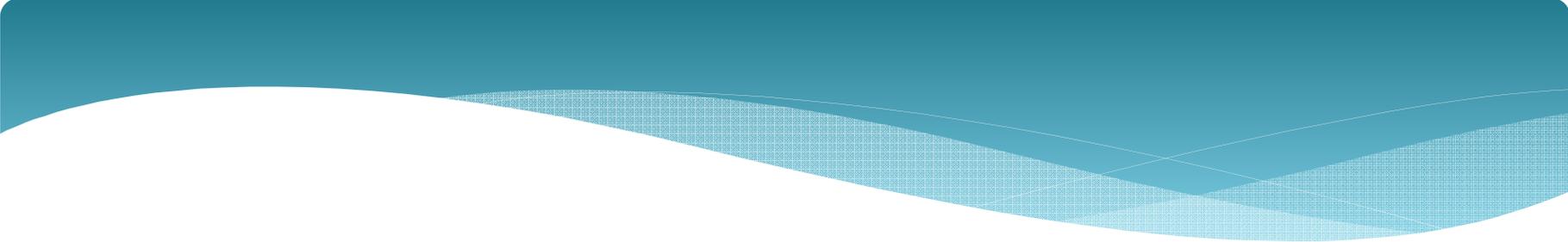
老朽化した設備等の改修を行う
こと

そうなるかと...

大幅な費用増

比較検討

耐震化方針	耐震補強 + 設備等改修	新築<参考>
庁舎規模	8,113 m ²	8,500 m ²
概算費用	耐震補強 (7億) + 設備等改修 (13億) = 20億円	45億円
使用年数	20年	60年



**以上のことから、
庁舎の今後のあり方を
市民会議で検討**